

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こみち
教育の小径No.187
2024 May
5月号

(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

あらし
まえ
嵐の前の
静けさ

暴風雨が襲うまえには、周りが一時静まり返ることがあります。このことから、異変が起こるまえの一時の不気味な静寂さをいいます。

新任教師へのメッセージ

- 教師人生は、ほかの職種と同様、山あり谷ありです。教師を志したときの意気込みと謙虚さをいつまでも大切にもちつづけることが大切です。
- 仕事に悩んだときや壁にぶつかったときには、遠慮することなく、校内などの同僚教師から早期にアドバイスを得よう努めましょう。

5月

今月の記念日

9日

アイスクリームの日

東京アイスクリーム協会(現在の日本アイスクリーム協会)がだんだん暑くなる連休明けのこの日、消費拡大を狙って、昭和39年(1964年)に制定しました。

初心をいつまでも忘れずに

この4月から、新たに教師になられた方に心からお喜びを申し上げます。新しい生活がスタートしてほぼ1か月が過ぎました。教師の仕事はいかがですか。予想していたように、毎日楽しく取り組んでいるのでしょうか。こんなはずではなかったと思っている方はいませんか。毎日が無我夢中で、教職の醍醐味を味わうところまでいっていないかもしれませんね。

算数の授業で、計算ができなかった子どもができるようになったときほど嬉しいものはありません。子どもから「先生! わかったよ」「できるようになったよ」などといわれると、嬉しくなります。教師の役割を果たせたと実感します。すでにこのような体験を味わっていることと思います。

教師の仕事は、生身の子どもを育てることです。教師の思うようにいかないのが常です。計画どおりに結果が出ないこともあります。ここに、自動車やテレビなど「モノ」を機械で製造する仕事と根本的な違いがあります。

子どもを育てることを、野菜や果物を育てる仕事にたとえることがあります。伝統的な技術を生かしたものづくりとも似ています。いずれも出来上が

るまでに、時間と手間をかけ、心を込めて命が吹き込まれます。

つねに思い出してほしいことがあります。それは教員採用試験の面接場で「なぜ教師になろうと思ったのですか」「どんな教師になりたいですか」などの質問にどのように答えたのかです。回答した内容に間違いがなかったから教師になれたのです。

教師の仕事に不安は付き物です。日々戸惑うこともあります。そのようなとき、教師を志したときの初心にかえり、周囲の人たちに謙虚に接することで、新たな活力が生まれます。昔から「初心忘るべからず」といいます。

学ぶ姿勢が大切です

経験が浅い段階ですから、指導の技術もベテランの教師のようにはいかないことがあります。ある意味で当然のことです。10数年も経験してきた教師と同じではありません。このことはどの職業にもいえることです。

経験の不足を補うのは「子どもへの愛情」です。一生懸命に教えている教師の姿は必ず子どもたちに伝わります。これは「若さの特権」でもありません。子どもたちに愛情をもって接することは、「もうひとつの指導技術だ」といえるのではないのでしょうか。

日々の仕事につまずいたり課題に直面したりしたときには、ひとりで悩まないことです。自分だけで解決しようとすると、悪い方向に自分を追い込んでしまったり、逆に自分に都合のよい結論を出そうとしたりするものです。仕事に悩んだり、指導の仕方がわからなかったりしたときには、早期に校内の同僚教師から助言を受けます。決して遠慮する必要はありません。

教えてもらうことは初任者の特権です。いまの時期はどのようなことでも聞くことができます。聞くことは努力不足を表すものではありません。経験年数を重ねていくと、徐々に聞くことに恥ずかしさを感じて躊躇するようになります。「聞くは一時の恥、聞かぬは末代の恥」といいます。また、「学ぶはまねるから」といいます。同僚の教師の優れた指導技術を「盗み取る」ことは悪いことではありません。

学校は組織で動くところです。つねに組織の一員としての自覚と誇りと責任をもって、困ったときには、謙虚な気持ちで同僚教師から教えてもらうようにしましょう。

自らの健康にはくれぐれも留意し、充実した教師人生が送れるよう、これからも「あかるく、いばらず、うそつかず、えがおでにこにこ、おおきな心」で日々の仕事を楽しみましょう。

「朝の会」の指導

各学級では毎日授業が始まるまえの10分間ほどを利用して、「朝の会」が行われています。

この時間は子ども一人一人の健康観察を行うという、教師にとって重要な役割があります。教師が子どもたちの名前を読み上げ、一人一人の顔の表情を見ながら出欠を確認している教師もいます。家庭でいやなことがあったり友だちとのトラブルを引きずったりしている場合には、それらが表情などに表れていることが多いものです。

教師には、子どもの小さな変化に気づく鋭敏な観察眼が求められます。気になった子どもがいたときには、必ず個別に話を聞く時間をとります。

教師は今日1日の学習や生活の予定を確認し、連絡事項を話します。「今日の記念日」を話したり、格言や諺など「今日の言葉」を解説したりするのもよいでしょう。長くならないようワンポイントで話すようにします。昨日の社会の出来事を「1分間スピーチ」で報告させたり、学級の歌を歌ったりするなど、子どもが参加する場や機会を設けることも大切です。

「朝の会」の進行をその日の日直などに任せることもできます。どの子どもにも進行役の機会が回ってくるように計画します。担当になった子どもが進行に戸惑わないように、「進行表」を教室内に掲示しておくとういでしょう。「朝の会」の内容を曜日によって変えることもできます。一般に教師の話は最後に位置づけます。

「朝の会」には、どの子どもも目的意識と意欲をもって、1日の学校生活のスタートが切れるようにするという重要なねらいがあります。

教育の動向

1単位時間の5分短縮

文部科学省では次期学習指導要領の改訂作業が始まっていると聞きます。そのひとつに、これまで45分とされてきた小学校の1単位時間を5分短縮し、40分にすることが検討されています。中学校は45分になります。

1日に6コマの場合、1日当たり30分が余剰になります。週当たり28コマで計算すると、140分になります。生み出された時間は、各学校が創意を生かして自由に活用できるようにするようです。このことが決定されると、新たな時間枠が設けられますから、子どもや教師にとって負担にならないか

と心配する声も聞かれます。

昭和52年の学習指導要領は「ゆとりと充実」をキャッチフレーズに改訂され、各学校が自由に使える「学校裁量の時間」が設けられました。一般に「ゆとりの時間」といわれました。

各教科の総授業時間が少なくなりやすから、指導内容はこれまで通りかどうか気がなるところです。このことについては現在明確な方向が示されていません。授業者の立場から考えると、現在も時間のかかる指導方法が求められていることもあり、指導内容の削減を求めたいところです。

小学校の1単位時間を45分とするの規定は、学校教育法施行規則にあります。今後、施行規則の改正と学習指導要領の改訂が進行していきます。



先人の残した言葉

7

木下 竹次

教師は学習者の活動を直観し、その性能を診断し、かれらの立場と方向とを誤りなく指導せねばならぬ。

木下竹次は明治5年(1872年)に、福井県の現在の勝山市で、旧勝山藩士の子として生まれました。木下は鹿児島、京都などの師範学校で教鞭をとったあと、大正8年に奈良女子高等師範学校に異動します。

木下は大正12年(1923年)に『学習原論』を出版しました。本書は当時の教育界においてベストセラーになったといえます。先の言葉は本書の第6章「学習指導の教師」の「根本思想の一変」の項に登場します。

この言葉のなかには、直観、診断、指導などのワードがみられます。直観とは実情を直接的に把握し、即座に対象の本質を見抜くことです。診断とは評価し判断することです。ここでいう指導とは、子どもをさらに伸ばすための手だてのことで

す。今日でいう「指導と評価の一体化」であり、「指導に生きる評価」について述べているものです。PDCAサイクルの考え方もあると受けとめることができます。

木下は先の言葉のあと、「教師は学習者に靈感を鼓吹する人であり、鼓舞奨励する人であり、忠告者であり、案内者でなくてはならぬ。また教師は、実にかれらの共学者であることを要する。」と述べています。また、教師と児童生徒は「親愛なる同行」であり、「伴侶」であるとも指摘しています。

ここには、木下の考えていた教師観や指導観、教師と子どもとの関係性が簡潔に述べられています。教師とは子どもたちにとって、そもそもどのような役割をもっているのか。教師の立ち位置を改めて確認したいものです。

INFORMATION

てのひら文庫 ⑤ 子どもたちに読書習慣

子どもたちの小さなてのひらに載せられ、あたためられ、随所に持ち運ばれ、そして、くい入るように読破してもらいたい—そんな願いがこめられた読書教材です。

- 総監修/児童文学作家 石森 延男
- A5判 16~28ページ 4色・1色
- 1~6年 各12冊
- 学校納入定価 1冊200円(税込)



ばんげい
きみの手に、みらいの夢を。

ご注文は、
文溪堂
代理店まで

編集後記

春は巷に新人があふれる季節です。彼らの輝きを見てわが身を省みると、まさに「初心忘るべからず」「後生畏るべし」という言葉が浮かんできます。今月号の特集記事を、すべての新人と元新人に贈りたいと思います。

(H記)



企画・編集：ばんげい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2024年5月1日